

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：幸いづみ保育園	種別：保育所	
代表者氏名：齊藤 直美	定員（利用人数）： 90 名	
所在地： 川崎市幸区南幸町3丁目149-3特別養護老人ホーム南さいわい5階		
TEL： 044-542-5696	ホームページ：aiwaiizumi@misasakai.or.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：平成28年4月		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 三條会		
職員数	常勤職員： 17名	非常勤職員 12名
専門職員	（専門職の名称） 名	
	保育士(補助) 18(6)名	栄養士 1名
	看護師 1名	
施設・設備 の概要	（居室数）	
	乳児室（1室）、ほふく室（1室） 保育室（5室）	（設備等） ホール（1室）、医務室（1室）、調 理室（1室）事務室（1室）園庭（3 61㎡）

③ 理念・基本方針

1) 利用する子どもの最善の利益を考慮

2) 養護及び教育の一体的

3) 保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援

保育理念

児童福祉法の理念に基づき、地域における最も身近な児童福祉施設として、入所児童及び地域の児童の最善の利益を考慮し、養護と教育の一体的な機能を果たし、豊かな人間性を持った、心身ともに健やかな児童を育成する

- ・子どもの健やかな育ちを支援
- ・保護者の就労と育児の両立を支援
- ・地域の子育て家庭を支援

保育目標

心身ともに健康な子ども

- ・健康で意欲的に生活する子ども
- ・友だちを大切にし、楽しく遊べる子ども
- ・よく見、良く聞き、伸び伸びと自分を表現するとともに、相手を尊重できる子ども
- ・人との交流を通し、豊かな感情表現ができる感性あふれる子ども

④ 施設・事業所の特徴的な取組

開園から4年目を迎え知名度も上がり、新年度の入園希望も多く、多くの方の園見学に対応している。若い職員が多く、保育や行事を明るく笑顔で元気一杯行うなど、職員間もとても仲が良い。その反面、経験が少ないことが弱点だと思うので、研修に参加して

もらう等学ぶ機会を多く作り、保育に生かせるようにしている。また、全体職員会議で研修の報告をしてもらい、自分自身の振り返りと共に、職員全体で学べる機会にしている。

同じ施設内の特別養護老人ホームの利用者の方とお泊り保育でのスイカ割りや敬老の日集会等交流を持てるようにし、老人との関わりを持つことで、いたわり・優しさ・触れ合う喜びをお互いに感じられることができている。また核家族化の中で、老人との関わりと共に、0才～5歳まで同じフロアで保育することで兄弟関係を体験することが出来ている。

園の特色作りとして、円滑なコミュニケーション力を育てる目的で始めた「笑育」は3年目を迎え、昨年度より幸区の公開保育とし、沢山の方に見学に来て頂いている。

地域支援として、園庭開放や絵本読み語り等を行っているが、夏の間はプール開放も行っていて好評を得ている。

園児達はこれからも様々な保育活動を通して、温かさや楽しさ、満足感等感じながら成長し、園児はもちろん保護者の方々にもこの保育園に通って良かったと思って頂けるよう、また地域の方に開かれた園として安全に心地よく利用して頂けるよう努力を重ねていきたいと思っている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2019年6月9日（契約日）～ 2020年2月15日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

■多くの体験を通し子どもの感性が豊かになるような取り組みをしている

園独自の特色である、英語を通じて様々な国を知る機会となる「英語教育」、保育士の資格をもつ芸人が芸を披露しながらテーマを上げ、子どもと一緒に考え発表をする笑いを通して学ぶ「笑育」、コミュニケーション手段の一つである「手話教育」などを行っている。また、食育ではテラスで栽培している野菜を通して、見る・触れる・嗅ぐ・味わうなどの感覚の動きを豊かにする取り組みを行っている

■園の環境を生かし、高齢者との交流など社会とのかかわりを大切にしている

園の同じ建物内に法人運営の特別養護老人ホームがあり、施設利用者の高齢者が園に遊びにきて話をしたり、1階の入り口で挨拶をし合ったりなど日常的な関りがある。5歳児は園でお泊り保育は行いテントを張ってのお泊り、朝食はおにぎり作りなどを行っている。高齢者とはスイカ割等に参加してもらい、関りを通して優しい心を育む取り組みをしている。敬老の日集会では、2階から4階にある特別養護老人ホームや1階のデイサービスに各フロア1日ずつまわり、交流を持っている。

■人材の確保には法人本部と共に力を入れている

法人本部の人事担当と連携を図り、保育士養成校の個別訪問、園見学ツアーの開催、卒業生の就業の様子などを伝え就職につなげている。また、必要に応じて派遣や紹介会社を通じて職員（保育士）の確保に取り組んでいる。年末には全職員に人事希望調査票の記入や園長面談によって次年度の意向調査を行い、担当したいクラスなどについて時間を掛けて聴くようにして、意欲が発揮できる職場環境作りに取り組んでいる

◇改善を求められる点

■災害時における保護者との連携をさらに向上させることが望まれる

事故発生時の対応と安全確保はマニュアルを整備し周知すると共に、防犯カメラの設置や災害や不審者対策の避難訓練の実施、安全点検やヒヤリハットを用い危険を無くすよ

う努めている。また、幸区の防災・危機管理研修の参加や園内研修・会議においてリスクマネジメントについて学んでいる。今後は保護者との連絡ツールとしてメール一斉配信など、さらに迅速に伝える方法などを取り入れることも検討されたい。

■中長期計画の策定を進めて欲しい。

法人や園の中・長期事業計画に基づき、園としての単年度事業計画を策定している。さらに、それらをベースに年間活動計画表（年間行事予定を含む）や年間指導計画案を作成し、月指導計画案・週指導計画案に落とし込んでいる。合わせて保健計画や食育計画も立案し、包括的に子どもを支援、指導できるようにしている。ただし、単年度事業計画には中長期的な内容も見受けられる。中長期計画、単年度計画の位置付けや内容を検証し、園運営にあたることを望まれる。さらに、評価可能な達成目標を定め、園一丸となって計画を推進できる体制を構築されたい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

保護者の連絡ツールとして、メール一斉配信を来年度から取り入れられるよう進めている。

中長期計画はすでに会議をもうけ、同法人の関東の保育園の園長が集まり計画を進める予定である。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり